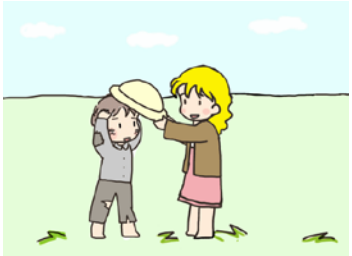
## 《星の金貨の少女はね…》

両親を亡くした
貧しい少女が

森の奥の小高い丘を目指し
１人歩いていました



途中、貧しい子供に出会い
着ている服をあげました

次に出会った子供には
持っているパンをあげました

そして
最後に出会った子供には

少女の着ている、肌着さえも
あげてしまいました

**それでも、少女は**
両親に会いたくて
小高い丘を目指しました

やがて、木々に覆われた
森を抜けると

満天の星空が広がる
小高い丘にたどり着きました

少女が空を見上げると

満天の星が
キラキラと輝く金貨に変わり
少女の上に降り注ぎ

少女は、ずっと
幸せに暮らしました

**けれど…、もしかしたら**
**星の金貨の少女はね**

金貨を拾わなかったんじゃ
ないのかな…？

もしかしたら
地上に降りた沢山の金貨ではなく

唯一、夜空に残った
一枚の金貨を見つめながら

涙がこぼれ落ちないように
その金貨を見つめながら

幸せに暮らしたんじゃ
ないのかな？

私もね…

私もあなたの側に
いつもいられるわけでは
ないけれど…

大切な人の
そばに舞い降りれなくても

少女が道に迷わないように
少女が悲しみで泣かないようにと

星の金貨になれなかった
唯一の星のように

あなたの進む道を照らす
優しいお星様に
なりたいです

このお話は 昔、私の愛する大切な子供に送った手紙です